

## モロヘイヤの早期収穫量向上技術の検討

【園芸部門(野菜経営担当)】

藤村 耕一

### 1 課題を取り上げた理由

モロヘイヤは、夏場の葉物野菜として注目されており、高齢者を中心に栽培されている。管内のモロヘイヤ栽培は、単価の高い時期からの出荷を目的にトンネル栽培が行われているが、さらに早期の収量を確保するために直播密植栽培の技術確立について検討する。

### 2 既往の成果

タマネギマルチを利用した直播密植栽培により、初期の収量を慣行栽培の約 10 倍に高めることはできたが、播種作業の労力が課題であった。ハンドシーダーによる密植播種作業の省力化とペーパーポットによる移植栽培の検討を行い、早期収量の確保に有効であったが、さらに省力、少設備の技術が必要と考えられた。

シーダーテープを用いた直播栽培により省力化できたがマルチを使用しないため雑草対策に課題が残った。

### 3 当該年度の調査・研究計画

1) 設置場所 観音寺市大野原町

2) 設置農家名 H氏

3) 調査期間 令和4年4月～令和4年6月

4) 耕種概要 品 種:「さぬきのヘイヤ」  
播種方法:シーダーテープ(5cm間隔で1カ所3粒)  
播種日:令和5年5月1日  
栽植密度:畝幅160cm、株間5cm、4条  
保温:播種後パスライトベタ掛け

#### 5) 区の構成

雑草対策として畝立て後畝上面に石灰窒素を散布する。

①70 kg区:4月14日に石灰窒素 70 kg/10a を畝上に散布

②50 kg区:4月14日に石灰窒素 50 kg/10a を畝上に散布

③無処理区

### 4 結果及び考察

#### 1) 播種作業時間

前年度は作条、覆土を手作業で行ったが本年度はシーダーテープ播種機による作条、播種、覆土を行った。作業時間は畝幅 1.5m、畝長 23.4m、4 条の 1 畝(35.1 m<sup>2</sup>)あたり 4 分 10 秒であり、1a あたり 12 分 30 秒と算出された。

#### 2) 収量

4 月 20 日、4 月 26 日、5 月 1 日に播種し、収穫は 6 月 1 日～15 日に行った。322.9 m<sup>2</sup>あたり 116 kg(58 箱)出荷したことから収量は 36 kg(18 箱)/1a と算出された(表 1)。

#### 3) 石灰窒素による除草効果

畝上面 0.5 m<sup>2</sup>あたりのモロヘイヤ地上部重量、雑草重量と石灰窒素処理量の間に一定の傾向は見られず、モロヘイヤの生育への影響や除草効果はともに無かったと考えられた(表 2、写真 1)。

前年度までは間引き残しの株を継続して収穫するため雑草防除が課題であったが、

今年度は継続して収穫する株を残さなかったので雑草の発生は問題なかった。

以上の結果から、直播密植栽培による 6 月上中旬収穫が可能であり、一斉収穫の場合雑草防除は不要と考えられた。

6 月下旬以降は従来の移植栽培(140~180 株/a)にリレーすることが想定されるが、初期収量を直播密植栽培で確保すれば収穫開始をやや遅く設定することが可能であり、従来株間での直播栽培と組み合わせることも検討できると考えられた。

## 5 具体的データ

表1 1aあたり収量

| m <sup>2</sup> | 出荷量    |       |
|----------------|--------|-------|
|                | 箱(2kg) | kg/1a |
| 322.9          | 58     | 35.9  |

表2 雑草発生量

| 処理区  | モロヘイヤ |       | 畝長50cmあたり<br>雑草重量(g) |       |
|------|-------|-------|----------------------|-------|
|      | 本数    | 重量(g) | 生                    | 乾物    |
| 70kg | 125   | 713.5 | 13.4                 | 1.546 |
| 50kg | 125   | 641.5 | 15.6                 | 2.002 |
| 無処理  | 125   | 845.5 | 12.1                 | 1.102 |

6/7調査

畝上面の雑草を抜き取り調査した

モロヘイヤは地上1cmで刈取った



写真 1 収穫時雑草発生量(無処理)

## 6 残された問題点

4 月に従来株間で直播した場合における、収穫時期と花芽着生を検討する。